

用語解説

あ行

あきさかり

水稻の品種で、高温耐性を持ち、短稈で倒伏がしにくく、多収が見込める品種。

近年、水稻栽培においては、高温障害や台風による倒伏等が発生するなど、温暖化による品質低下が問題となっており、徳島県は平成28年度、奨励品種に採用。

アグリサイエンスゾーン

徳島大学石井キャンパスと農林水産総合技術支援センターを核とする産学官が連携し、それぞれが持つ強みとアイデアを組み合わせることで、次世代を担う人材育成や革新的技術開発を行い農業の6次産業化を推進する拠点。

アグリビジネススクール

農業者やこれから農業をはじめの方を対象に、農業技術、農業経営及び6次産業化などの講義や実習を行い、グローバル化にも対応できる経営能力を有し本県農業の成長産業化を担う即戦力となる農業人材を育成する研修課程。平成25年4月、農林水産総合技術支援センター農業大学校に開講。

アミノ酸入りコンクリートプレート

海や川に沈めると、アミノ酸が溶け出すコンクリートのこと。

表面に付着する微細藻類の生長が促進され、通常のコンクリートに比べ、藻類の生長速度が早いとされる。

阿波尾鶏

県内で古くから飼養されていた赤笹系軍鶏を徳島県畜産研究課が10年の歳月をかけて純粋繁殖により、昭和63年に造成した雄系に、優良肉用鶏であるホワイトプリマスロックを掛け合わせた一代雑種鶏。

阿波地美栄

「阿波地美栄処理衛生管理ガイドライン」に即した食肉処理施設で適切に処理されたシカ肉、イノシシ肉のこと。

阿波地美栄取扱店

阿波地美栄及び阿波地美栄を用いた料理や加工品を提供する施設や店舗のこと。そのうち、阿波地美栄と徳島県産の野菜、果実、魚介類等の食材や調味料等を使用した地域色が豊かな料理を提供する飲食店や喫茶店等を、特に「うまいよ！ジビエ料理店」と呼ぶ。

阿波とん豚

徳島県畜産研究課が、最新の遺伝子解析技術を駆使して選び抜いた、イノシシの肉質特徴を受け継ぐ、全く新しいブランド豚。

意欲と能力のある林業経営者

平成31年4月に施行された「森林経営管理法」に基づく新たな森林管理システムにおいて、市町村から経営管理実施権の設定を受けることができる一定の条件を備えた民間事業者。

海の野菜

海中の栄養分を吸収して成長するワカメ、ヒジキ、アオノリなどの海藻類のことを称する。ミネラル、ビタミン、食物繊維など栄養成分が多く含まれていることから、健康食品として関心が高まっている。

エコファーマー

たい肥などによる土づくりを行いながら、化学合成農薬や化学肥料の使用量を減らし、環境に優しい農業に取り組む計画を知事に提出し、知事が認定した農業者。

エコファーマーマーク

「エコファーマー」が、導入計画に沿って生産した農作物に表示するマーク。

エシカル消費

地球環境や社会貢献などに配慮したモノやサービスを積極的に消費する行動。

エシカル農産物

持続可能性の高い生産方法で栽培される「GAP認証取得農産物」、「有機農産物」、「エコファーマー生産農産物」を「とくしまエシカル農産物」として位置づけている。

オープンラボ

農林水産総合技術支援センターに設置された開放型実験施設。

か行

カーボン・オフセット

自らの日常生活や企業活動等による温室効果ガス排出量のうち、削減が困難な量の全部又は一部を、他の場所でも実現した温室効果ガスの排出削減や森林吸収等をもって埋め合わせる仕組み。

カーボンニュートラル

木材などの植物由来のバイオマス燃料などが持つ、燃やしても大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えない性質のこと。

カワウ

カツオドリ目ウ科に属する水鳥で、体長80～90センチメートル。沿岸部や内陸の湖沼河川で主に魚を食べるため、現在は増加したカワウにより内水面における漁業被害が全国に拡大している。

漁業版BCP

南海トラフ巨大地震等で被害を受けても、漁業が早期に再開できるように、県として事前に

実施すべき業務内容や実施体制を明らかにした計画

※BCP：Business Continuity Plan

クーラーステーション

酪農家から集められた生乳の輸送の中間に位置する冷却施設で、大量流通や配送先の変更などにも対応し、一時的に生乳を集荷保管する施設。

経営所得安定対策

農家の経営安定と国内生産力の確保を図るために農家に交付される交付金。

米の直接支払交付金（29年度で終了）、水田活用直接支払交付金、米・畑作物の収入減少影響緩和対策からなる。

耕作放棄地

以前耕地であったもので、過去1年以上作付けせず、しかもこの数年の間に再び耕作する考えのない土地。

広域浜プラン

広域な漁村地域が連携し、生産の効率化や販売力の強化、地域漁業の維持・発展のための中核的担い手の育成等を目的に策定する「浜の活力再生広域プラン」のこと。

ごうしゅいも

三好町やつるぎ町の山間部で古くから栽培されている「ばれいしょ」の一種。小ぶりで甘く、煮くずれしないのが特徴で、おでんやみそ田楽などに適している。皮の色に白と赤の2種類があることと地元の伝説にちなんで「源平いも」の名で商品化されている。

高次GAP

「農林水産省GAPガイドライン」準拠以上の水準をもつ「GAPの認証制度」。

グローバルGAPやJGAPなどの「国際水準GAP」や、「農林水産省のGAPガイドライン」に準拠している「とくしま安²GAP農産物認定制度のうち優秀認定」などが該当。

高性能林業機械

従来のチェーンソーや集材機に比べ、安全かつ効率的に作業ができ、性能が著しく高い林業機械。建設用重機をベースに林業用アタッチメントを装備したものが主流で、本県ではスイングヤーダ、プロセッサ、フォワーダの3点セットのほか、ハーベスタやタワーヤーダなどが使われている。

公的管理森林

森林の有する公益的機能を維持増進するために公的機関が管理する森林。具体的には、県、市町村及び徳島森林づくり推進機構が所有又は契約や受託により管理する森林のこと。

コンテナ苗

林業用の苗木で、樹脂製の多孔容器（マルチキャビティコンテナ）で生育し、根鉢（土）が付いているもの。従来の苗と比較し、ほぼ通年植栽が可能、植栽作業が容易、育苗作業の労働負担軽減等の特徴がある。

さ行

サイエンスゾーン

農林水産3分野である「アグリ」「フォレスト」「マリン」の各「サイエンスゾーン」の総称

サテライト工場

国産材原木の流通のスピードアップ、低コスト化のために、山元の素材生産現場に近い場所で、原木の選別・仕分けを行い、製材・合板工場などの需要先に直送するための中間工場。

山地防災ヘルパー

阪神・淡路大震災を契機に発足されたボランティア団体で、山地における災害情報の迅速かつ確かな収集活動を図るため、山地防災に関して一定の専門的知識を有する市町村職員、林業関係団体職員、県職員OB等で構成されている。

産地リノベーション

市場が求める商品を戦略的に生産し、有利販売することを目的に、これを支える生産基盤の再生・強化を推進する取組。

四国グリーン・ツーリズム推進協議会

四国4県が連携・協調し、四国が持つ海、山をはじめ、棚田、里山などの豊かな自然景観、四国遍路のお接待に代表される人情の深さや癒やしの風土を活用して、都市と農村の交流を促進するグリーン・ツーリズムを推進していくため、4県関係課で構成する組織。

集落営農

地縁的にまとまりのある集落を単位として、農業生産過程の一部又は全てを共同で行う組織。機械・施設の共同利用や共同作業、集落として意欲ある担い手に農作業を委託など地域の実情に応じた様々な形態がある。県内では、平成29年1月末現在、42組織が活動している。

主伐生産システム

主伐による木材搬出を効率的に実施するための路網と先進林業機械等を組み合わせた生産性が高く安全な木材生産システム。急峻^{しづん}な地形に対応した大型のタワーヤダや油圧式集材機などの架線系タイプと、林道や作業道などの路網を活かした車両系タイプがある。

将来ビジョン

「ワークショップ」を通じて、地域住民自らが発案した、農山漁村づくりのアイデアをまとめた「実行計画」のこと。アイデアは、地域にある豊かな自然や美しい景観等の「地域資源」を活用した内容となっている。

食藍

食用に供されたタデアイ（蓼藍）のこと。また、これを食材として作られた料理や加工食品の総称。

食と農の景勝地

地域の「食」とそれを生み出す「農林水産業」を核に、景観や歴史などを組合せ、訪日外国人を中心とした観光客の誘客を図る取組みを農林水産省が認定する制度。平成28年に本県の「にし阿波地域」が西日本で唯一認定された。

針広混交林

スギやヒノキなどの針葉樹とシイ、カシ、ケヤキ、ナラなどの広葉樹が混在する森林のこと。

「新鮮なっ！とくしま」号

平成17年1月に県が導入した大型キャンペントラックの名称。調理機能と舞台機能を兼ね備えた多機能でオールインワンの汎用性が特徴であり、本県が誇る豊かな食「阿波ふうど」や阿波踊りに代表される「文化」を丸ごと、県内をはじめ首都圏や関西圏などで強力的にアピールしている。

森林経営計画

「森林所有者」又は「森林の経営の委託を受けた者」が、自らが森林の経営を行う一体的なまとまりのある森林を対象として、森林の施業及び保護について作成する5年を1期とする計画。

森林GIS

地図や位置に関する様々な情報をコンピュータを用いて重ね合わせて、視覚的に表示させるシステムで、このシステムを森林管理に応用したもの。

スマート林業プロジェクト

川上の県産材生産から川下の木材利用まで産業振興を目的とした林業施策を一体的に展開し、最先端技術を取り入れた林業・木材産業のスマート化による林業の成長産業化を図るための令和元年度から開始した4年間の計画。

先進林業機械

高性能林業機械の中でも、特に生産性が高く伐採や集材方法に大型で高速自動化等の新しい機能を持つ機械や、油圧式集材機など今後開発される先進的な林業機械の総称。

掃海

漁場機能を回復させるために、海底の堆積物（河川から流れ込んだ流木などや、缶・ペットボトルなどの投棄されたゴミ）を除去すること。海底の堆積物をそのままにしておくと、漁具の破損や漁獲物の品質低下などの被害が発生する。

た 行

第3期徳島県鳥獣被害防止対策基本方針

徳島県における鳥獣被害防止対策の方向性を定めたもの。平成29～33年度の5年間を実施期間とし、今回の改訂により、新たに、長期的には農林水産被害を半減することを目指し、被害や対策の現状を分析した上で、具体的な活動の目標を設定。

多面的機能支払制度

「農業・農村が持つ多面的機能」今後とも適切に発揮されるよう、交付金（「農地維持支払」と「資源向上支払」）により地域の共同活動を支援する制度。

田んぼの学校

古くから農業の営みの中で形づくられてきた水田や水路、ため池、里山などを、遊びと学びの場として活用する環境教育。

地域商社・阿波ふうど

「地域商社・阿波ふうど」は、生産者の所得の向上と安定を目的とし、「生産振興」と「販売促進」の機能を併せ持つ「地域商社」として、平成28年1月、県及び農業団体によるコンソーシアムにより設立した組織。正式名称は「とくしまブランド推進機構」。

畜産プレミアムブランド

高品質で安全安心な本県の畜産ブランド「阿波牛」・「阿波とん豚」・「阿波尾鶏」について、新たな価値を付加させた畜産物をプレミアムブランドとしており、具体的には、認証制度（HACCP等）取得や長期間飼育、飼料用米給与等に取り組み、品質や生産性に磨きをかけたワンランク上の畜産物のこと。

地籍調査事業

一筆ごとの土地について、その実態を明らかにするため、所在、地番、地目及び境界の調査と登記簿に記載された所有者の表示事項に関する確認と、境界の測量及び面積の測定を行い、調査の結果を地図及び簿冊に作成することをいい、いわば土地に関する戸籍調査ともいうべき基礎的な調査を行う事業。

中山間地域

一般的に、平野の周辺部から山間地に至る、平たんな耕地が少ない地域。国や県では中間農業地域（林野率は主に50～80%で、耕地は傾斜地が多い市町村）と山間農業地域（林野率が80%以上、耕地率が10%未満の市町村）の二つの地域を合わせた地域を中山間地域としている。

中山間地域総合整備事業

国の交付金を活用し、中山間地域の農業の生産性の向上と農村の定住条件の整備、国土の保全等を目的に、農業用水路や農道などの生産基盤および集落排水や集落道などの生活環境基盤に係る各種整備を総合的に実施する事業。

中層型浮魚礁

カツオ、マグロ、サワラなどの回遊魚の、水面や水中の構造物に集まり、滞留する性質を利用して、水中（水面から20～50m程度の深さ）に構造物を設置することで、その周辺に魚を寄せ、効率的に漁獲することができるようにするための施設。

鳥獣被害情報システム

コンピュータ上のGIS地図情報に農作物被害額、柵の整備状況、鳥獣の生息状況、捕獲状況などの様々な情報を付加して一元管理し、地図情報を組み合わせ参照できるように表示機能を持ったシステム。柵の整備や被害情報の管理に活用。

長伐期林

木を植えてから伐採するまでの期間を「伐期」といい、一般的な40～60年の伐期に比べ、樹木をより大きく育てる施業体系とし、おおむね80年以上に伐期を長期化した森林のこと。

地理的表示保護制度

地域で育まれた伝統と特性を有する農林水産物・食品のうち、品質等の特性が産地と結びついており、その結びつきを特定できるような名称を「地理的表示」といい、その名称を知的財産として国に登録することができる制度。

でり・ぱりキッチン阿波ふうど号

ステージ付きの大型PR車両「新鮮なっ！とくしま」号に続き、平成29年度に導入した、2台目のPR車両。中型で厨房機能に特化しており、機動力と調理能力に優れている。

「とくしま安²GAP農産物」

「とくしま安²GAP農産物認証制度」により、認定された農場で生産された農産物。

「とくしま安²GAP農産物・認証マーク」を付けて販売することが可能。

「とくしま安²GAP農産物」認証制度

GAP（Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）とは、「食品安全」や「環境保全」、「労働安全」などに配慮しながら、農業生産活動の持続的な改善につなげていく農場管理の取組みであり、このGAPの考え方を取り入れた農作物の生産・品質管理体制（農場）を徳島県が検査・認定する制度。

徳島かんきつアカデミー

かんきつ農家の方やこれから就農を目指す方を対象に、みかん・すだち・ゆずなど主要なかんきつ類の栽培管理から農産加工・販売に至る一環した技術を学ぶことができる研修。年間を通じて栽培管理を学べる「中核的人材育成コース」と、分野を選択した学べる「特定技術力向上コース」を設置。

とくしま木づかい県民会議

県産材の新たな利用分野を開拓し、幅広く「木を使う」気運を高めるため、林業・木材・建築関係者に加え、商工団体、子育て支援団体、大学や高校、市町村など、100以上の団体が参画し、「県民総ぐるみ」で県産材利用を進める団体。平成28年3月17日に設立。

とくしま漁業アカデミー

浜を支える意欲ある担い手の確保・育成を目的とした、誰もが徳島の漁業を学ぶことができる漁業学校のこと。即戦力となる新規漁業就業者を養成する長期講座や、本県漁業の魅力発信を担う人材や次代の浜のリーダーを養成する短期講座から成る。

とくしま漁業就業マッチングセンター

漁業に興味を持つ県外の移住希望者を対象に、就業相談窓口業務を行う機関で、県内と東京に開設。

徳島県食育推進計画

県民が生涯にわたり、健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、食育の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、食育基本法第17条に基づき本県が策定した計画。

徳島県鳴門わかめ認証制度

「トレーサビリティ（加工履歴管理）」を備えた加工業者を県が認定し、認定を受けた事業者が生産する「適正な食品表示」の確認された徳島県産鳴門わかめ加工品に「認証マーク」を表示することのできる制度。

徳島県鳴門わかめ認証制度の事業推進に関する指針

「鳴門わかめ」の産地偽装根絶に向け、徳島県鳴門わかめ認証制度の普及・定着をはじめとする積極的な取り組みを通じ、「鳴門わかめ」の生産・流通・消費の一層の拡大を図るための指針。

とくしま県版保安林

「徳島県豊かな森林を守る条例」に基づき、水資源や県土の保全機能の維持増進を図るため指定した「森林管理重点区域」の中で、特に重要な地域を伐採や開発行為を制限して管理するため「第1種地域」として指定した森林。

徳島県豊かな森林を守る条例

森林を適正に管理し、森林の持つ機能を維持増進することにより、本県の豊かな森林を将来にわたって守り引き継ぐことを目的として、平成25年12月に制定。森林の土地取引の事前届出制度等を規定。

とくしま水産創生ビジョン

本県水産業の潜在的な可能性を最大限に引き出し、「もうかる漁業」を実現するため、すべての関係者の共通目標として策定した計画的かつ総合的な指針。

徳島大学・生物資源産業学部

1次産業、食料、生命科学に関する幅広い専門知識と、生物資源の製品化、産業化に応用できる知識と技術を有し、国際的視野に立って、生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材の育成を目的として、平成28年4月に新たに設置された学部。

とくしま畜産成長戦略

経済のグローバル化に対応し、経営への影響を最小限にとどめ、本県畜産業が将来に向けて夢のある産業となるように、当面取り組むべき体質強化策を取りまとめたもの。

とくしま特選ブランド

とくしまブランドをさらに国内外にアピールする「世界に誇れるトップブランド」に育て上げるため、一次産品・加工食品・伝統工芸品の3分野より「徳島を代表する優れた商品」を認定している。平成30年度までに100選の創出を目指している。

とくしま農林水産物等海外輸出戦略

農林水産関係者、商工関係者等の意見や生産者による現地調査を踏まえ、輸出促進を図る国・品目の「重点化」、品目数・輸出量の「拡大」、輸出の「継続化」を図るための「産地形成」、「産地間連携」の強化を定めた本県の輸出指針。

とくしま農林漁家民宿

「とくしま農林漁家民宿確認要綱」に基づく、農林漁業者が営み、宿泊者に農林漁業体験を

提供する、客室延床面積が33㎡未満であり、かつ定員が10名未満の小規模な民宿のこと。

徳島の活鱧PRキャンペーン

「徳島の活鱧ブランド確立対策協議会」と県が連携して行っている、「徳島の活鱧料理味わいキャンペーン」や「はもの日（8月3日）」に合わせた県内外でのPR等のキャンペーンのこと

徳島発・次世代技術

産学官が連携し、ICTやロボット等によるスマート農業の推進、バイオ技術を用いた地球温暖化に適應する新品種の創出及び農林水産物の機能性を活かした商品開発など、生産性の向上や地域資源の高度利用に資する新技術。

とくしまブランド海外協力店

海外において県産農林水産物を扱い、「認知度向上」や「消費の拡大」に協力いただく店舗を登録している。

とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊

農山漁村地域の保全・活性化を目的に、社会貢献に前向きな企業、大学等（協働パートナー）と、応援を求める農山漁村地域（ふるさと団体）の間を県が取り持ち、農作業や地域のコミュニティ活動を両者の協働により行う取組み。

とくしま木材利用指針

国の「木材利用促進法」及び県の「県産材利用促進条例」に基づき、県産材利用を総合的、計画的に推進するための指針。行政の指針にとどまらず、関連事業者や県民の方々とともに取り組むための、県産材利用の道標となる指針。

とくしま^{もり}森林づくり県民会議

県民、企業、行政などの各主体が、それぞれの役割に応じた積極的かつ主体的な森林^{もり}づくり活動が実践できるよう調査研究や普及啓発に取り組んでいくことを目的に110以上の企業・団体等が参画し、平成23年8月に設立された団体。

とくしま林業アカデミー

林業就業希望者を対象に、1年間で実践的な林業技術を習得させ、県内林業事業者等へ即戦力となる人材を育成する、公益社団法人徳島森林づくり推進機構が運営する研修機関。

とくしま林道ナビ

林道に関する通行情報や周辺スポット・イベント情報など複数の情報を集めたり、それらの情報を提供する共通の基盤。徳島の林道で遊ぶお役立ちサイト。

とくのうか 篤農家

農業技術や農業経営を研究し、農業指導により先進的農法の普及に貢献した農業経営者。

那賀高校森林クリエイト科

「人と森林の新たな関わり方を創造し、森林資源を活かした地方創生を担う生徒」の育成を目的に、平成28年4月に新設された学科。実践的な森林施業や製材・加工・測量等を学習し、商品開発等の6次産業化に取り組む教育も推進。

日本型直接支払制度

農業・農村の有する国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的機能の維持発揮を図るため、それを支える地域活動、農業生産活動の継続、自然環境の保全に資する農業生産活動を「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」に基づき支援する制度。

日本農業遺産

社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、ランドスケープ、生物多様性などが一体となった農林水産業システムのうち、世界及び日本における重要性、並びに歴史的及び現代的な重要性を有するものを農林水産大臣が認定する仕組み。

平成29年3月、本県の「にし阿波の傾斜地農耕システム」が認定されるとともに、「世界農業遺産」の国内候補地に選定された。

乳用牛群検定

乳用牛1頭ごとの生産乳量や乳成分、体細胞数を定期的に測定し、その結果をもとに、低能力牛の淘汰や飼養管理の改善に活用することで、酪農経営の生産性向上を図るもの。

認証木材

環境に配慮した持続可能な経営森林から、合法的に生産されたことを、第三者機関により証明された木材をいう。なお、徳島県木材認証機構による産地認証や合法認証もある。

農業次世代人材投資資金制度（旧 青年就農給付金制度）

次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、「準備型」として就農前の研修期間（2年以内）の生活安定に、「経営開始型」として就農直後（5年以内）の経営確立に資する資金を交付する制度。

農業版BCP

近い将来の発生が予想される「南海トラフ巨大地震」や「直下型地震」に備え、農地・農業用施設が冠水、塩害及び用紙施設の部分的な破断等の被害を受けた場合に、早期復旧を可能とするための課題と対策をとりまとめた事業継続計画。

農業・農村が持つ多面的機能

日本の農業・農村は、「食」を支えているだけではなく、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など様々な働きを持っている。このような様々な働きが「農業・農村が持つ多面的機能」。

農場HACCP

農場HACCPは、畜産農場における衛生管理を向上させるため、農場にHACCPの考え方を採り入れ、危害要因（微生物、化学物質、異物など）を防止するための管理ポイントを設定し、継続的に監視・記録を行うことにより、農場段階で危害要因をコントロールする手法。

農林水産業未来創造基金

進展するグローバル化に対応するとともに、意欲ある農林漁業者が未来を志向し、次代に継承できる農林水産業の形成を推進する事業に要する経費に充てるため積み立てられた基金。

農林水産省GAPガイドライン

国内に様々なGAP（Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）が存在していたため、取組内容の共通基盤を整理するため、「食品安全」「環境保全」「労働安全」の幅広い分野を対象に、高度な取組内容を含むGAPの共通基盤として策定されたガイドライン。

農畜水産物等輸出サポートセンター

本県の優れた農畜水産物とその加工品の海外への輸出を促進するため、「とくしま農林水産物等海外輸出戦略」に基づき、輸出に取り組む生産者や事業者の皆さまの実践的なサポートを行うために設立されたセンター。

農地中間管理機構

高齢化や後継者不足などで耕作を続けることが難しくなった農地を借り受け、認定農業者や規模拡大を志向する農業者などの担い手に貸し付ける公的機関。

は 行

浜の担い手育成支援事業

新規就業者の定着を促進するため、漁業協同組合が所定の要件を満たす経営が不安定な就業後3年以内の青年漁業者に対して支援するために要した経費の一部について助成を行う制度。

浜っ娘★

漁協女性部等を中心とした、各種イベント等において本県漁業や県産水産物の魅力発信を担う人材。

ハラール認証

イスラム教の戒律に則って調理・製造された商品であることを証する制度のこと。イスラム法において合法的なもの（主にイスラム法において食べることを許された食品）である「ハラール」に対応した商品やサービスが認証される。

搬出間伐

スギやヒノキなどの樹木の生長によって混み合った林の一部を間引くために伐採し、伐採された木を利用するため林外へ搬出する間伐施業の一種。本県では列状に伐採し高性能林業機械等で搬出している。

複層林

樹齢、樹高の異なる樹木により構成される森林の総称。複層林に対し、樹高がほぼ同じ高さ

に揃った森林を単層林という。

農山漁村（ふるさと）協働パートナー

県の「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊」の趣旨に賛同し、農山漁村地域で農作業やコミュニティ活動を地域住民との協働により行う企業、大学、NPO法人等のこと。

フォレストキャンパス

県内外の大学生の研究の場や高校生の学習の場などに活用するフィールドを提供するため、県有林等に設けた林業体験林のこと。

フォレストサイエンスゾーン

徳島県木材利用創造センター（徳島市南庄町）を中核として、産学官が連携し次世代を担う人材の育成と研究開発を進めイノベーションを創出する森林林業・木材利用分野の知と技の集積拠点。

不燃化木材

無垢材に不燃の薬剤を添加することにより不燃材料として国土交通大臣に認定されたもの。

ふるさと水と土指導員

土地改良施設や農地の機能保全、都市との交流や地域住民活動を推進する中山間地域のリーダーの人材のこと。市町村長の推薦に基づき、県が任命する。

保安林

水源のかん養、災害の防備、生活環境の保全・形成など公共の目的を達成するために、森林法に基づいて指定された特定の森林。保安林の持つ公益的機能の維持増進を図るため、一定の伐採・転用規制や必要な事業等が実施される。

ま 行

マーケットイン型

市場や量販店、消費者など、買い手の立場に立って、買い手が必要とする農産物（商品）を提供しようとする意識となっていること。

マリンサイエンスゾーン

本県水産業の成長産業化及びその関連産業の振興を図るため、産学官が連携し次世代を担う人材の育成と研究開発を進め、新たなイノベーションを創出する水産・海洋分野の知と技の集積拠点のこと。

（鳴門マリンサイエンスゾーン）

水産研究課鳴門庁舎と隣接する徳島大学水圏教育研究センターとで形成

（海部マリンサイエンスゾーン）

水産研究課美波庁舎と県有種苗生産施設（海陽町）とで形成

ムスリム市場

イスラム教徒である「ムスリム」の市場を指す。世界のムスリム人口は約16億人を超え、2050年には世界人口の3分の1に達すると言われており、2015年時点のハラール市場規模は100兆円超と予想されており、我が国にとって目の離せない巨大市場。

木質バイオマス発電所

木材チップやペレットなどの木質バイオマスを燃料に使用するもので、他の再生可能エネルギー発電と比べて安定して質の高い電力を生む反面、燃料を調達する必要があり、ランニングコストや供給体制を適正化する必要がある。

木造建築学校

建築士や大工などを対象に、木造建築に秀でた人材を育成し、県産材の利用拡大に繋げるため、県内の建築設計関係4団体が中心となって運営する一連の講座。平成29年からはインターネットを利用したeラーニング講座を開設する。

もと畜

食肉生産を目的として肥育される牛や豚の肥育開始前のものを指し、一般には、和牛の子取り農家が生産し、生後9ヶ月齢前後で市場販売される子牛が対象。

藻場

藻類が多く繁茂する水域のこと。魚介類に餌を供給するとともに、産卵場や稚魚の隠れ場となり、更に、海域の水質浄化の役割も果たしている。内湾の砂泥域に繁茂するアマモ場、穏やかな岩礁域に繁茂するガラモ場、比較的波浪の強い岩礁域に繁茂するアラメ・カジメ場などがある。

や行

有機・特別栽培

有機栽培は、化学的に合成された肥料及び農薬の使用を避けることを基本として、土壌の性質に由来する農地の生産力を発揮させるとともに、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した栽培管理方法。

特別栽培は、土づくりを行うとともに、節減対象農薬の使用回数が慣行の使用回数の5割以下であること、化学肥料の窒素成分が慣行の5割以下であることを満たす栽培方法。

輸出型産地

輸出に意欲のある生産者等の育成、魅力のある商品の開発の支援、輸出する品目の供給量を確保する体制の整備等を推進し、継続して安定した輸出を進めるための産地形成のこと。

ら行

陸閘

人や車両の通行のために堤防等を切って設けられた海岸への出入り口を閉鎖する門。その門扉が、閉鎖時に堤防としての役割を果たす。

リーディング品目

「すだち」「なると金時」など、「とくしまブランド」全体を牽引する代表的な品目を「リーディング品目」という。これらの全国認知度を更に引き上げることで、県産品全体のイメージアップを図る。

林業機械サポートセンター

林業事業者の起業化を促進するため、初期投資額が高額な高性能林業機械のリース等を支援する仕組みで、公益社団法人徳島森林づくり推進機構が運営している。

林業プロフェッショナル

林業作業員の技能習熟度に合わせて段階的に技能向上を目指す「林業プロフェッショナル養成研修」を受講し修了した者の総称。

林道プラットフォーム

林道に関する通行情報や周辺スポット・イベント情報など複数の情報を集めたり、それらの情報を提供する共通の基盤。徳島の林道で遊ぶお役立ちサイト「とくしま林道Navi」のこと。

林内路網

林業を行うために整備された林道、林業専用道、作業道のこと。

六次産業化研究施設

農業者や漁業者等が自ら徳島ならではの特産品を用いた6次産業化のアイデアを具現化することができるオープンラボ機能を備え、高校、大学、民間事業者と連携し、加工食品等の試作などが行える研究施設。

わ行

若手女性農業者フォーラム

農業生産技術や農産物加工などの研修等により、農業生産の重要な担い手であり農村地域の活性化に不可欠な女性農業者のスキルを高め、活躍の場を広げる取組み。

若手タスクフォース

若手職員の資質向上を図るため、新たな発想・視点による特定の課題の調査、研究を目的とした、30歳代までの若手職員で構成されたグループ。

アルファベット

COC認証

木製品や紙製品の加工・流通の過程において、環境に配慮した持続可能な経営森林から、合法的に生産された木材を使用していることを、各過程における認証の連鎖により証明する制度（Chain-of-Custodyの略）

D材（A・B・C・D材）

柱や板などの製材に使われる原木（丸太）をA材、合板用をB材、パルプやMDFの原料チップ用をC材と呼ぶのに対し、熱源ボイラーや発電用燃料として利用される原木をD材と呼ぶ。近年、全国での木質バイオマス発電所の稼働に伴い、急速に需要が伸びている。

HACCP

食品の製造・加工工程のあらゆる段階で発生するおそれのある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析（Hazard Analysis）し、その結果に基づいて、製造工程のどの段階でどのような対

策を講じればより安全な製品を得ることができるかという重要管理点（Critical Control Point）を定め、これを連続的に監視することにより製品の安全を確保する衛生管理の手法。

※HACCP：Hazard Analysis and Critical Control Point

ICT

「Information and Communication Technology（インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー）」の略語で、情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービスなどの総称。ICTは日本では「情報通信技術」と訳されている。

IPM

総合的病害虫・雑草管理と定義され、病害虫や雑草防除において、化学合成農薬だけに頼るのではなく、環境への負荷を低減しつつ、農作物の収量や品質に経済的な被害が出ない程度に発生を抑えようとする考え方のことであり、天敵や防虫ネット、病気の被害を受けにくい品種の利用などの様々な組み合わせの防除技術のこと。

※IPM：Integrated Pest Management

MDF

建材や家具に使われる木質ボードの一種で、中質繊維板（Medium-Density-Fiberboard）の略。製造工場は国内に3工場あり、うち1工場が徳島県に立地している。製法は、木材の繊維を取り出し、接着剤と一緒に圧縮成型するもので、製品は表面の平滑性や均質性に優れる。

Turn Table

東京都渋谷区に開設した、徳島の食をテーマとした情報発信と交流の拠点施設。飲食、物販、宿泊の機能を持ち、他県アンテナショップと一線を画す複合商業施設。